



応募名称

もったいない食べものを、ありがとうへと 変える、フードバンク活動

会社名、事業場名

セカンドハーベスト・ジャパン(2HJ)

東京都台東区 / <http://2hj.org>

■ 具体的な取組内容 ■

まだ食べられるにも関わらず、捨てられてしまう運命にある「もったいない」食品を、企業や農家、個人の方からお預かりし、食べ物に困っている生活困窮者や福祉施設の方へ届けるフードバンク活動。

まだ食べられるにも関わらず捨てられる運命にあるもったいない食品の活用量

2002年に法人化してから2013年までの食品取扱高の合計は、10,141トン。これを金額換算すると、47億8725万円となる。2011年から2012年にかけては、東日本大震災の影響や震災支援活動などで、突発的に量が増加している傾向にある。(下記棒グラフ参照、単位はトン)

経済効果及び地球温暖化・省エネルギー効果

1) フードバンクで活用した食品を企業が廃棄していたと仮定した場合の支出金額

この合計をすべて企業が廃棄コストをかけて廃棄していたとすれば、廃棄コストは10億1406万円。食品の換算金額47億8725万円と合わせると、58億131万円となり、この支出を、当団体のフードバンク活動で抑えたことになる。

2) フードバンクで活用した食品を企業が廃棄していたと仮定した場合の排出CO₂量

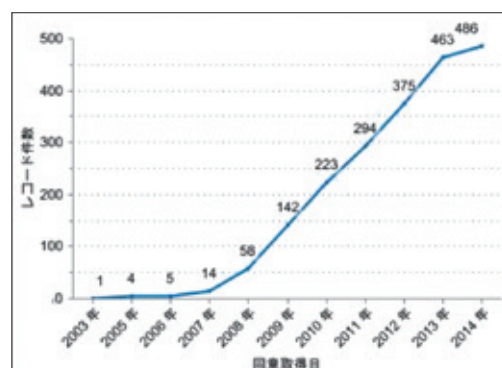
活用した食品を、仮に食品企業が廃棄していたとすれば、排出したCO₂量は3,935トンである。

3) フードバンク活動に参加したボランティアなどの経済効果

ボランティア登録者は4900名(2014年3月14日現在) ボランティア合計時間は133,488時間、その経済効果は1億3622万円。

同意書(合意書)を締結した企業(多くは食品関連企業)

法人化してからこれまでに同意書(合意書)を締結した団体は、2014年3月14日現在、486団体(9割以上が企業)にのぼる。(下記折れ線グラフ参照、単位は団体及び企業数)



■ 評価 ■

企業、農家、個人から寄付を受け、福祉施設用に届けるフードバンク活動を継続し、2002～2013年で10,141t、47.8億円相当を食品として活用している。また、全国のフードバンク団体との緩やかなネットワーク関係を結び、加工食品のロスを全国のフードバンク活動に活用すべく配分している。我が国のフードバンクの先駆けとして貢献していることを評価した。